

会 議 録

会議の名称	令和3年度第3回川越市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和3年11月12日(金) 午前10時00分開会 午前10時40分閉会
開催場所	環境プラザ「つばさ館」3階 研修室
議長氏名	議長(会長): 新井正司
出席者(委員) 氏名(人数)	委員: 新井正司、大塚淳、田中貴洋、最首洲子、塚越恵美子、倉嶋真史、村山博紀、嶋田弘二、中野敏浩、今野英子、中村文明、高橋剛、星野弘志、野平佳紀、大川敏彰、松波淳也(16名)
欠席者(委員) 氏名(人数)	委員: 馬場崇、谷口義治、青木裕佳子、村野昭人(4名)
事務局職員 職・氏名	環境部長: 高橋宗人 環境部副部長: 山崎茂(環境政策課長) 参事: 波立浩一(資源循環推進課長)、藤田雅司(環境施設課長) 課長: 山原弥(環境対策課)、清水潤(産業廃棄物指導課)、新井偉雄(収集管理課) 副課長: 長嶋幹生(資源循環推進課)、石川直紀(環境施設課) 副主幹: 中山伸矢(資源循環推進課) 主事: 眞行寺三友紀(資源循環推進課) 主事補: 市川聖也(資源循環推進課)
傍聴者	なし
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 議 題 (1) 川越市一般廃棄物処理基本計画「ごみ処理基本計画」の見直しについて 3 その他 4 閉 会
配布資料	<p>【事前配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 審議会委員名簿 ・ 「ごみ処理基本計画」の見直しについて(資料1、2、3、3-2、参考資料1、2、3) <p>【当日配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川越市一般廃棄物処理基本計画「ごみ処理基本計画」編(貸出用)

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
司 会 資源循環推進課副主幹 (減量リサイクル推進担当)	<p>定刻となりましたので、ただいまより、令和3年度第3回川越市廃棄物減量等推進審議会を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、20名の委員さんの内、16名の方にご出席いただいております。川越市廃棄物減量等推進審議会条例第5条第2項に基づきまず過半数に達しておりますので、会議が成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>【資料確認】</p> <p>本日の傍聴者はなし。</p>
会 長	【挨拶】 新井会長
司 会	それでは、川越市廃棄物減量等推進審議会条例第4条第2項の規定に基づき、新井会長さんに議長になっていただき、進行をお願いいたします。
議 長	それでは、ただ今から議長を務めさせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。議題(1)川越市一般廃棄物処理基本計画「ごみ処理基本計画」の見直しについて事務局より説明をお願いします。なお、前回会議において、施策の一つ、家庭ごみ有料化に関して多数の発言がございました。事務局に今までの経緯を報告いただくようお願いいたしましたので、併せて説明をお願いいたします。
資源循環推進課長	先に家庭ごみ有料化の経過について、参考資料1にて内容を確認させていただきます。
資源循環推進課副課長	【説 明】 次に議題の川越市一般廃棄物処理基本計画「ごみ処理基本計画」の見直しについてご説明させていただきます。
議 長	【説 明】 ただいま、事務局より説明がありました。質問、ご意見等がございましたら、よろしく願いいたします。特にございませんか。ないよ

資源循環推進課長

うでしたらその他について事務局より何かございますか。

今まで確認等をいろいろとありがとうございます。

ここで、欠席の委員さんからの質問について触れさせていただきます。資料1の裏面、令和8年度の目標値と令和13年度の目標値で、リサイクル率と最終処分量の数値のかい離で違和感があるが、どのように考えているかという内容です。

今回の計画の目標数値設定については、上位計画である川越市総合計画や川越市環境基本計画にも明記している部分がありますので、そのところは配慮する必要があるという前提がございます。

ご指摘のように、リサイクル率、最終処分量の数値について、令和13年度に掲げている数字は、達成がかなり難しいと考えておりますので、進行管理していく上で、令和8年度では、実績の平均値にさせていただいております。

令和13年度の目標値につきましては、これから使用済みプラスチックのリサイクルが今後どうなっていくかというところもありますし、最終処分も今後リサイクル方法が確立されれば、前提が大きく変わりますので、令和13年度は当初の目標を掲げているところでございます。

最後に、取り組みのところでは、施策効果での量を書き込めなかった部分がございます。まず数値目標を達成するために、進行管理していくことが大事なことであると思っておりますが、一つの課題が今後もあるという意識でございます。

以上になりますが、今回素案を冊子としてご用意できませんでした。ここでお詫びを申し上げたいと思います。冊子につきましては、12月3日に送らせていただきたいと思いますと考えております。

何かご意見等がございます場合にはご連絡をいただき、その取り扱いにつきましては、正副会長と協議し対応させていただこうと考えております。

スケジュールでは、12月中に誤字脱字等を改めて確認させていただき、1月に意見公募を行い、その結果を審議会の皆様にご報告したいと考えているところです。スケジュール等含めて、ご承認いただければと思います。

以上でございます。

委 員

一点ですが、数値目標のところですが。前回の計画もそうなのですが、参考ということで事業系ごみの排出量が書いてあり、平成30年度の実績よりも実際に令和13年度も増えていきますし、中間年度も増えて

	<p>しまうということです。そうすると、家庭系ごみを相当減らさなければならぬということになると思うのですが、参考値とはいえ、増えているというのは、イメージとして、なかなか市民の方は理解しにくいと思われます。事業系ごみについては産業の発展や商店の数の増加、出荷量の増加等で最終的には増えていくということだと思っておりますが、事業系ごみを自主的に各事業者が減らしていくというような何か指標的なものを設定しないと、事業系ごみの量と事業系ごみの施策というのが合っていないという面があるんです。</p> <p>だから何か検討して、先ほどの1店舗当たりのごみの数とか、事業者からのごみの排出量とか、あるいは出荷量などから、何か数値的に参考になるようなものを、やはりどこかで提示していただくことが必要なのかなと思います。</p>
<p>資源循環推進課長</p>	<p>事業系ごみのご指摘のところは、ご指摘の通り、他の数値がきっちり絞っている中で事業系ごみが絞れていないことをごさいます。</p> <p>ここでは、あくまで参考で目標とはしておりません。この参考値をどうするかという判断になろうかと思いますが、ここでご意見を伺って、それを踏まえて、どちらかにするかということになるのかと考えています。</p> <p>事務局では、参考値ということで、推計値をそのまま掲載してるとい、そういう内容でございます。</p> <p>今は、お答えとしては以上でございます。</p>
<p>委員</p>	<p>なかなか指標を出しにくいという事情はわかるのですが、だとすると、結局こちらの資料2の4ページ以降に、事業者の排出抑制の対策をやりますと書いてあり、非常にそれは良いことだと思うのですが、そうすると、この参考という書き方が言葉足らずというか、事業系ごみはこのまま推移していくと、要するにこのように増えてしまいますよと、そういう意味での目標値として提示して、この4ページの事業者の排出抑制をやっていく必要がありますよと、定量的にその効果については測定できないというような、そういうスタンスでこの数値を示すべきではないかなという意見です。</p>
<p>資源循環推進課長</p>	<p>ご指摘、ご助言いただきましてありがとうございます。</p> <p>他の数値と明らかに違うというところがありますので、もう少し分かりやすくなる工夫をしたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの説明で、ごみの有料化は減量になるという説明でしたけれ</p>

ど、過去の第9回の審議会の県内視察の際に蓮田の方と幸手の方に伺いました。有料化だけでは減量にならなかったと、有料化したのにごみの量が増えたのではまずいので、行政の方では抑えるように色々な施策を実施したという経緯があります。有料化イコール減量にはならないというのはその時、見学でお聞きしたことなのです。表だけ見ると、確かに減るのですが、そのときにいた担当者にはその努力をするんだったら、有料化しなくっても同じじゃないですか、有料化しなくても努力して減るんだったら、なにも有料化する必要はないんじゃないですかと申し上げました。

それと、この二つの市は有料化する理由がどちらもあったのです。一つの市は、自分のところの焼却施設が使えなくなったので、よそにお願いする、そのお願いするところがもう有料化していたので、合わせなければならないということでした。もう一つの市は、もともと一件いくらでごみ処理の費用を徴収していた。一件いくらっていうことになると、やはり出した人と出さない人が不公平になるので、有料化にしたということでした。やはりそちらも、実際にはリバウンドしかけたので、市の方で一生懸命抑える努力をしたということでした。そのときに感じたのは、資料に出てくるもの、実績それだけが有料化の評価ではないということでした。以上、二か所に行ったときの感想です。

資源循環推進課長

ごみの有料化については、過去の13回の審議会の内容の議事録を確認する中で、概要をまとめましたので、細かいところを委員さんがお伝えいただいているものだと思っております。

いずれにしましても、減量の中の一つの施策という位置付けとして、川越市として取り組むということにとらえておりますので、過去の内容については改めて審議会の場で提供できるようなところも考え、この取り組みは進めていくことを考えております。

以上でございます。

委員

ごみ有料化の減量効果について、その政策のみで一定期間リバウンドが起こってしまうことがあるということですが、実際の有料化の効果というのは、総合的な政策の中の一つ。有料化をやることに伴って、他の政策を行うわけです。それが総合的に効果をもって減量化していく。リバウンドしているところは総合的な政策がなかったということであり、有料化自体に効果はあるんだけれども、それに伴った総合的な政策をしなかったということでリバウンドが起きていると理解しています。

	<p>先ほど委員さんから発言がありましたように、有料化という仕組みだけでなく、有料化を支える他の総合的な減量化の政策が総合的に効果をもって、それで減量化が進んでいくと理解しています。そう考えると、今事務局がお答えになったように有料化の効果自体は、総合的な減量の一部、一側面に過ぎないという、そういう理解でございます。</p> <p>感想として、実際の減量化のためには、他に総合的に取り組む必要があると考えています。</p>
<p>議 長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>その他委員の方々からご質問等ございますか。</p> <p>特に無いようですので、先ほど説明のありました冊子送付及び今後のスケジュールですが、冊子は12月3日、それから委員の方々のご意見がある場合は12月16日までということで、このように進めてよろしいでしょうか。</p>
<p>委 員</p>	<p>異議なし</p>
<p>議 長</p>	<p>それでは、このスケジュールで進めさせていただきたいと思います。それでは議題の審議が終わりましたので、これをもちまして、議長の職を解かさせていただきます。大変ご協力ありがとうございました。</p>
<p>司 会</p>	<p>それでは閉会の挨拶をお願いいたします。</p>
<p>副 会 長</p>	<p>【挨拶】大塚副会長</p>
<p>司 会</p>	<p>以上をもちまして本審議会を終了させていただきます。</p>